

相談援助の理論と方法

問題 91 ソーシャルワークにおけるストレングスモデルに関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 ソロモン(Solomon, B.)は、ストレングス視点の原則のなかで、すべての個人、家族、集団、コミュニティはストレングスをもつと述べた。
- 2 ホリス(Hollis, F.)は、心理社会的アプローチにおいて、クライアントの動機づけ、情緒的能力、知的能力、身体的能力からなる能力をストレングスと表現した。
- 3 ジャーメイン(Germain, C.)は、ストレングスアプローチの立場から、ストレングスはエンパワメントの要素であり資源であると述べた。
- 4 ラップ(Rapp, C.)とゴスチャ(Goscha, R.)は、ストレングスモデルの原則の一つとして、地域を資源のオアシスとしてとらえることを挙げている。
- 5 リード(Reid, W.)とエプスタイン(Epstein, L.)は、課題中心アプローチにおいてストレングスを中心に位置づけ、援助を短期間で計画的に実行することを重要視した。

問題 92 パールマン(Perlman, H.)が提唱した問題解決アプローチに関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 クライアントが問題をもつことを病理であるとしてとらえて、クライアントへの診断と処遇の過程を重視した。
- 2 問題解決の過程をクライアントとともに構築していくことを重視し、クライアントがもつ「解決イメージ」に焦点を当て、短期間で解決に導くことを尊重した。
- 3 クライアントの問題に対して、「この原因がこの結果を生む」という原因と結果の直線的な関係からとらえようとした。
- 4 クライアントが社会的役割を遂行する上で生じる葛藤の問題を重視し、その役割遂行上の問題解決に取り組む利用者の力を重視した。
- 5 ソーシャルワーカーの問題解決能力をワーカビリティと名付け、その向上のためのスーパービジョン過程を重視した。

問題 93 事例を読んで、Aさんの発言に対するG相談員(社会福祉士)のこの段階における対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

〔事例〕

R総合病院の相談室に、妻(51歳)と息子(17歳)の三人で暮らしているAさん(56歳)が、妻の主治医から紹介されて来所した。Aさんは、妻がこのたび若年性認知症と診断され、初めて相談室を訪れた。G相談員が面接を開始するとAさんは、「妻の調子がおかしくなって家族の生活が一変した。妻は家事もまともにできなくなり、私が仕事から帰ってきてても部屋は散らかっているし、食事の準備もできていない。私も疲れているのでつい怒鳴ってしまう。このたび若年性認知症と診断され、これから通院を続ける必要もあるが、息子の受験も近いので困っている。どうしたらいいか」と話した。

- 1 妻を入院させることを提案して、専門病院への入院手続を進める。
- 2 Aさんの怒鳴るという行為をたしなめ、妻の気持ちに寄り添うよう指示する。
- 3 息子のことを大切にできるように伝えて、息子の受験を優先するように提案する。
- 4 妻への介護が十分にできるように、Aさんに就労のあり方を見直すように勧める。
- 5 具体的なサービスに関する情報提供を行い、継続しての面接をAさんに提案する。

問題 94 相談援助におけるアセスメントツールに関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 ソシオグラムとは、成員間の選択・拒否関係を図式化して、小集団における人間関係の構造を明らかにするためのものである。
- 2 MD S (Minimum Data Set)とは、支援の対象となる地域の課題解決に向けて、その課題を客観的に測定するためのものである。
- 3 エコマップとは、白地図に物的資源を記入して、クライアントと自然環境の関係を明らかにするためのものである。
- 4 P I E (Person-in-Environment)とは、クライアントが担ってきた役割や経歴上の出来事を取り上げて、その人生行路を観察するためのものである。
- 5 ジェノグラムとは、クライアントに樹木の絵を描かせて、家族における世代間の関係を理解するためのものである。

問題 95 事例を読んで、H相談支援専門員(社会福祉士)による支援計画の作成に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

〔事例〕

脳性麻痺により重度の身体障害があるJさん(27歳、女性)は、母親(58歳)と二人暮らしで、母親による介護を頼って生活していた。しかし、Jさんは将来は就労や一人暮らしをすることを希望していた。ある日、母親の持病が急に悪化して、入院治療が必要ということになった。Jさんから電話連絡を受けた相談支援事業所のH相談支援専門員は、Jさん宅を訪問し、母親入院中のJさんの介護をどうするかという相談を受けた。Jさんは急なことで動揺しており、母親が入院中の自分の介護を誰に頼んだらいいかを心配している。H相談支援専門員は緊急のアセスメントを行って、母親が入院している間のJさんの支援計画の作成に取り掛かった。

- 1 この機会に、Jさんと母親との親子関係を過去にさかのぼって分析し、Jさんの一人暮らし実現に向けた支援計画を作成する。
- 2 この機会に、就労による社会参加と地域での自立生活という、Jさんの将来の理想と目標に向けた支援計画を作成する。
- 3 Jさん親子の動揺が激しいので、自らの専門的な判断によって支援計画を作成する。
- 4 母親が入院予定の病院のソーシャルワーカーと協力して、Jさんの支援計画を作成する。
- 5 Jさんにも計画作成に参加してもらい、起こり得るリスクへの対応を踏まえた支援計画を作成する。

問題 96 事例を読んで、Kソーシャルワーカー(社会福祉士)の対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

〔事例〕

病院に勤務するKソーシャルワーカーは、交通事故による外傷で左半身が麻痺したLさん(43歳, 男性)を主治医より紹介され、退院援助を行うことになった。Lさんはこの事故によって失業し、退院後の就職の見通しもなく、また、そのことが原因で家族との関係がうまくいっていない状況にあった。Kソーシャルワーカーは、同室者がいない時間にLさんの病室を訪れ、Lさんからの了解を得て面接を始めた。最初は順調に話をしていたLさんであったが、Kソーシャルワーカーが家族との関係について質問を始めると、徐々に表情が険しくなり、「家族のことは話したくありません。もう結構です。出て行ってください」と言った。

- 1 Lさんの意向を尊重して面接を中断し、主治医に面接に応じるよう説得してもらう。
- 2 面接の継続は難しいと判断し、Lさんの気分を害したことをお詫びし、Lさんの家族及びかつての職場の上司から情報を得る。
- 3 Lさんの気分を害したことをお詫びし、質問内容を変え、Lさんの障害に焦点を当てるようにする。
- 4 Lさんの気分を害したことをお詫びし、間を少し空けて改めて面接を行うことにする。
- 5 個人的な情報について聞くことが必要だと説得し、Lさんへ根気よく質問を続ける。

問題 97 妻と二人暮らしのMさん(78歳, 男性)は, 半年前にくも膜下出血で倒れ, その後遺症として左半身麻痺がある。Mさんは, 訪問介護と通所介護を利用しながら, 妻の介護により自宅での生活を続けていた。Mさん担当のN介護支援専門員(社会福祉士)は, これまでも定期的な訪問を行い, Mさんの状況把握を行ってきた。しかし, Mさんが最近風邪で寝込んだことをきっかけにADLの低下がみられ, 妻の介護負担も増えつつあった。先日, 家庭訪問した際にもN介護支援専門員は, 「今はなんとか頑張れているが, このままでは不安で・・・」という妻の相談を受けていた。

次のうち, N介護支援専門員が行ったケアマネジメント業務を表す用語として, 最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 コーディネーション
- 2 スクリーニング
- 3 モニタリング
- 4 アウトリーチ
- 5 コンサルテーション

問題 98 ソーシャルワークにおける効果測定の方法に関する次の記述のうち, 適切なものを一つ選びなさい。

- 1 ソーシャルワークにおける効果測定は, ソーシャルワーカーの援助技術がどの程度向上したかについて, スーパーバイザーが評価することによって行われる。
- 2 ソーシャルワークの効果測定における単一事例実験計画法では個人の事例が対象となり, 家族や集団の事例は除かれる。
- 3 ソーシャルワークにおけるエビデンス・ベースド・プラクティスとは, 事例研究による質的調査ではなく, 量的調査によって効果測定を行うことである。
- 4 ソーシャルワークにおける効果測定とは, 支援計画の実施状況やサービスの利用状況, また, 新たな課題の発生の有無などの定期的な観察を行うことである。
- 5 ソーシャルワークの効果測定における集団比較実験計画法は, 同じ問題をもつ人のなかから介入した群と介入しなかった群に分けて評価を行う。

問題 99 バイステック (Biestek, F.)による援助関係の原則に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 「非審判的態度の原則」とは、判断能力が不十分なクライアントを非難することなく、ソーシャルワーカーがクライアントの代わりに意思決定を行うことである。
- 2 「自己決定の原則」とは、クライアントの心情を感じ取ってほしいという要求に応じて、クライアントの訴えや気持ちを確実に受け止める準備をすることである。
- 3 「統制された情緒的関与の原則」とは、ソーシャルワーカーが自らの感情を自覚、吟味して、クライアントの感情に対して適切に反応することである。
- 4 「受容の原則」とは、ソーシャルワーカーがクライアントに受け入れてもらえるように、誠実に働きかけることである。
- 5 「意図的な感情の表出の原則」とは、ソーシャルワーカーのクライアントに対する肯定的な感情を、クライアントに対して意図的に表現することである。

問題 100 事例を読んで、この段階におけるA児童福祉司(社会福祉士)の対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

〔事例〕

V県の児童相談所に勤務するA児童福祉司は、U市の児童家庭相談窓口の担当者から送致を受けて、児童虐待の疑いのある母親のBさん(36歳)と面接を行うことになった。Bさんは現在、3歳の子どもと夫との3人で暮らしている。数日後、児童相談所を訪ねてきたBさんは、A児童福祉司に会うや否や、夫の不就労、過度の飲酒、女性問題等、夫への不満について話し出した。児童虐待の疑いについては、「私は夫のせいでストレスがたまっている。そのせいか、子どもには多少つらくあたっているかもしれない」と話した。

- 1 子どもの安全を確保するため、すぐに子どもの一時保護を実施する。
- 2 Bさんの苦労をねぎらいながら、夫を就労させるために公共職業安定所(ハローワーク)に通わせることを勧める。
- 3 夫の気持ちを代弁しながら、まずは母親としての役割を果たすよう努力を促す。
- 4 夫婦関係の修復が不可能であると判断して、離婚や調停に詳しい弁護士への相談を勧める。
- 5 Bさんに詳しく状況を話してもらうとともに、近々、家庭訪問させてほしいと提案する。

問題 101 事例を読んで、地域包括支援センターのC社会福祉士の初回訪問面接における対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

〔事例〕

地域の民生委員より、息子(50歳)と二人暮らしをしているDさん(85歳、女性)宅から、時々、男性の怒鳴り声や女性の悲鳴のような声が聞こえるので、一緒に様子を見に行ってほしいという相談依頼が寄せられた。C社会福祉士は、この民生委員とともにDさん宅を訪問した。息子は不在であった。Dさんの許可を得て居間に通り、日常生活に関する話を伺った。Dさんは伏し目がちで多くを語ろうとしないが、最近、Dさんの持病の糖尿病が悪化して家事のできない日が多く、リストラにあって会社を辞めた息子に叱られることがあると細々とした声で語った。

- 1 「閉ざされた質問」を多用して、可能な限り虐待に関する事実を把握する。
- 2 息子が仕事に就くように、親らしく威厳をもって振る舞うよう励ます。
- 3 息子との関係性を把握するため、ジェノグラムを用いて家族関係を診断する。
- 4 Dさんが息子と離れて安心して暮らせるよう、施設に関する情報を提供する。
- 5 Dさんの発言とともに表情や室内の状況を観察し、支援の緊急性を判断する。

問題 102 事例を読んで、婦人相談所におけるE相談指導員(社会福祉士)の2回目の相談面接における対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

〔事例〕

Fさん(35歳、女性)は、結婚以来、夫のアルコール依存と暴力に悩まされていると訴え、婦人相談所でE相談指導員による面接相談を受けている。初回面接では、夫の暴力のひどさを興奮気味に訴えていたが、2回目の面接となる今日は、言葉に詰まりながら、深刻な面持ちで話し始めた。「前は話を聞いていただいてすっきりしました。でも、これからどうしたらいいかわからなくて……。母はすでに亡くなっており、父は別の女性と再婚していて疎遠です。頼れる友人もいないし……」

- 1 積極的傾聴により、Fさんの否定的な感情の逆転移を促す。
- 2 Fさんの不安な感情を反射しながら、解決すべき課題を明確化する。
- 3 Fさんを問題状況に直面化させるために、夫との家族面接を設定する。
- 4 夫の精神科への入院の必要性をFさんに指摘し、問題の外在化を図る。
- 5 Fさんの父親との過去の関係を評価し、脱三角形化を促す。

問題 103 ケアマネジメントの過程に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 リファールには、支援が望まれると判断された人々を地域の関係機関が支援提供機関などに連絡、紹介することが含まれる。
- 2 スクリーニングとは、利用者のニーズに適合したサービスを提供する組織を探して、必要なサービス、提供方法などについて交渉、調整することである。
- 3 プランニングとは、心身機能の状態、生活状況などについて、規定の書式を用いて情報を収集し、サービス利用の対象者となるかどうかを確認することである。
- 4 モニタリングとは、利用者の置かれている状況を把握するために、利用者の情報を収集し、どのような生活ニーズが生じているかを明らかにすることである。
- 5 マッチングには、サービス提供後に、ケアプランに基づくサービスが提供されているか、利用者のニーズが充足されているかを定期的に確認することが含まれる。

問題 104 事例を読んで、G相談支援専門員(社会福祉士)によるサービス担当者会議の進め方に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

〔事例〕

相談支援事業所のG相談支援専門員は、交通事故によって下肢機能を損傷したHさん(25歳、男性)の支援を市の担当者から依頼された。そこで、Hさんと家族に面談し、アセスメントを行った。サービス利用計画を作成するに当たり、G相談支援専門員は、Hさん本人とHさんの支援に直接かかわるサービス担当者全員の参加を求めて、サービス担当者会議を開催することにした。

- 1 会議の司会者になり、自らが決定権をもって会議を進行する。
- 2 Hさんに会議で話される様々な専門用語を理解するように、あらかじめ指導する。
- 3 Hさんの希望や願望について、実現可能なものに限って取り上げて話し合う。
- 4 Hさんの意思が尊重されるように、サービス担当者の間を調整する。
- 5 サービス担当者の専門的な意見を重視するよう、Hさんに依頼する。

問題 105 地域包括支援センターに勤務する J 社会福祉士は、地区の民生委員から、「近所に住む K さんのことなのですが、70 代後半の女性で一人暮らしをしています。最近、どうも様子がおかしく、季節にそぐわない服装で出歩き、足元もおぼつかなくなっています。少し瘦せてきているようにも見えます。また、家の周りにはごみが散乱して悪臭が漂い、近隣住民からの苦情が増えています。私も何度か訪ねているのですが、いつもすごい剣幕で『用はない、帰れ!』の一点張りです。何か良い方法がないのでしょうか」と相談を受けた。民生委員から相談を受けた後、すぐさま、J 社会福祉士は K さん宅を訪問したが、その日は K さんに拒否されて会うことができなかった。

次のうち、この時点での J 社会福祉士の対応として、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 玄関に名刺や K さん宛のメモを置いて、K さん宅への訪問を継続する。
- 2 民生委員に今後の対応をゆだね、状況に変化があった際の報告を依頼する。
- 3 K さん宅に電話を入れ、センターに来所するよう伝える。
- 4 民生委員と協力して、K さん宅のごみの片付けを行う。
- 5 K さんの意向を尊重し、センターに連絡があるのを待つ。

問題 106 事例を読んで、L相談支援専門員(社会福祉士)の対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

〔事例〕

相談支援事業所のL相談支援専門員は、中程度の高次脳機能障害をもつMさん(34歳、男性)の父親から、「これからどうしていったら良いのでしょうか、先行きが全く見えません。息子は、毎日、目的なくただ過ごしています。いったい何をしているのでしょうか。一日も早く自立してもらいたいです」と相談を受けた。これまでMさんは、父親の友人から紹介された職場で何度か就労を経験しているが、長続きしなかった。また、地域活動支援センターの利用は、父親がやめさせている。最近のMさんは、毎日、地域の公民館のロビーに行って過ごし、夕方になり帰宅するという生活で、その状態が半年以上続いているとのことである。

- 1 Mさんの気持ちを確認の上、Mさんの考えを伝えるために父親に三者面談を提案する。
- 2 父親の考えを尊重し、Mさんと個別面接を行い就労自立に向けた努力をするよう助言する。
- 3 日中活動の場が必要なため、Mさんと個別面接を行い作業所への通所を勧める。
- 4 Mさんと個別面接を行い、父親の気持ちを代弁してこれ以上心配をかけないように伝える。
- 5 就労先確保のため、障害者の雇用経験をもつ事業所に関する情報を父親に提供する。

問題 107 ソーシャルサポートネットワークを活用した支援に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 インフォーマルなサポートよりもフォーマルなサービスの機能に着目し、それを活性化しようとするものである。
- 2 第一義的な目的は、ソーシャルサポートを提供する組織間のつながりを強めて、効果的に連携できるようにすることである。
- 3 ソーシャルサポートネットワークをアセスメントする場合は、利用者の主観的な意見にとらわれず、客観的にとらえる。
- 4 ソーシャルサポートネットワーク形成の方法として、自然発生的ネットワーク内に関与する場合と、新しい結びつきをつくる場合がある。
- 5 ソーシャルサポートの機能は、個人の情緒的支援をするのではなく、政策レベルでのサポートを実現しようとするものである。

問題 108 事例を読んで、就労継続支援事業所のN生活支援員(社会福祉士)の対応に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

〔事例〕

N生活支援員は、18歳から20歳代前半の知的障害のある利用者6人(いずれも男性)によるグループを新たに形成して、メンバーの自己表現力や生活意欲の向上を目的とするグループワークを実施してきた。彼らは、この事業所に通所するようになって、まだ日が浅いメンバーたちであった。また、共通して自己表現力が乏しい上に、親や援助者への依存的な傾向が強く、生活意欲も低い傾向がみられた。N生活支援員は、週に1度の余暇活動の時間を利用してグループ活動を行うことにして、1時間程度のメンバーによる話し合いを中心としたプログラムを実施してきた。

- 1 メンバーの依存的な傾向を考え、自主的な話し合いがなされるまで待ち続けた。
- 2 最も資質のあると思われる一人のメンバーを、グループのリーダーに指名した。
- 3 遅刻者や発言しないメンバーがいたので、そういう態度ではグループ活動に参加させられないことを伝えた。
- 4 メンバー間の言い争いが生じた場面で、メンバー同士がお互いに話し合って解決していくことを促した。
- 5 仲の良い3人のメンバーからなる下位グループが形成されたので、3人に対してお互いに距離を置くように指示した。

問題 109 スーパービジョンに関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 個人スーパービジョンとは、複数のスーパーバイザーが、一人の援助者に対してスーパービジョンを行うことをいう。
- 2 グループスーパービジョンとは、複数のスーパーバイザー間の相互作用を活用しながら、援助者に対してスーパービジョンを行うことをいう。
- 3 セルフスーパービジョンとは、援助者が所属する職場内の人間関係を、援助者自らが活用してスーパービジョンを行うことをいう。
- 4 ピアスーパービジョンとは、援助者が所属する職場内の上下関係を活用してスーパービジョンを行うことをいう。
- 5 ライブスーパービジョンとは、スーパーバイザーが援助者の実践場面に同席するなどしてスーパービジョンを行うことをいう。

問題 110 「個人情報の保護に関する法律」又は「福祉関係事業者における個人情報の適正な取扱いのためのガイドライン」(厚生労働省)に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 事業者がサービス利用者から本人のサービス利用の情報提供を求められた場合には、書面による手続きを求め、情報提供の可否について慎重な審査を行い対応しなければならない。
- 2 福祉関係事業者は、プライバシーポリシーを策定・公表して、利用者等の理解を得るとともに、法を遵守し、個人情報保護の積極的な取組の姿勢を対外的に示すことが求められる。
- 3 死亡した個人の情報については、その情報が遺族等の生存する個人に関連するものである場合においても、法律やガイドラインの対象外となる。
- 4 サービス利用者やその家族に関する個人情報は法律の対象に含まれるが、施設の職員やボランティアに関する個人情報は対象から除かれる。
- 5 個人情報の利用にはあらかじめ本人の同意が必要であり、児童虐待事例について関係機関と情報交換する場合も同様である。

問題 111 事例を読んで、A生活支援員(社会福祉士)が開催するケースカンファレンスに関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

〔事例〕

就労継続支援事業所に最近通い始めた知的障害のあるBさん(28歳、男性)は、ここ1週間ほど作業に集中できなくなり、急に席を立って歩き回ることが多く、他の利用者に暴力をふるうこともあった。担当のC職員は、このようなBさんの行動の原因が分からないまま対応に悩んでおり、上司で主任のA生活支援員に相談した。相談を受けたA生活支援員は、Bさんのことを取り上げるケースカンファレンスを開催することにした。

- 1 Bさんの暴力行為を鎮めるための対応の仕方に焦点を当てて、話し合いを行う。
- 2 Bさんの本事業所の利用は難しいと判断して、他の事業所を利用することを検討する。
- 3 Bさんの行動に関する情報や考えを参加者で出し合って、その要因を探る。
- 4 事業所内でのBさんの担当職員を変更し、A生活支援員自らが担当することをその場で通知する。
- 5 C職員に生育歴を聞いて自己覚知を促し、Bさんに対するC職員の対応の仕方を見直す機会とする。